



減り続ける歯科技工士と矯正技工の将来 Decreasing dental technicians and the future of orthodontic lab work

株式会社アバンテック
後藤 光利

現在、歯科技工士の減少が急速に進んでいます。昨年度の歯科技工士国家試験の受験者数も全国で900人を切るところまで落ち込んで来ているのが現状です。次の時代を背負うべき若い歯科技工士の数が異常なほど減少しています。従事者の高齢化により新しい技術革新への対応も十分ではないと聞いています。矯正技工においても例外ではありません。複雑な矯正装置を職人技とも言える素晴らしい技術で提供することはほとんど困難になると予測されます。ここでは歯科技工士の確保のためのディスカッションをするのではなく、技術的にどのように対応していくかという観点で考えたいと思います。

私も不肖ながら矯正技工に携わって40年を超えるまでになりました。その間、治療方法も作成する装置も随分変遷してきた感があります。矯正技工を始めた頃は複雑な装置を高いレベルで製作する技術を習得するのが目標であった時期もあります。しかし、時代とともに合理化、簡便化されながらも高い精度の治療結果が得られるようになってきました。それにより製作する装置も随分と変化してきました。現在、急速な拡がりを見せようとしているデジタル技術の活用により大きなパラダイムシフトが起きようとしています。CAD/CAMによる装置や治療予測、インダイレクト法、アナログでは出来なかったデジタルの特徴を活かした装置等、今後矯正治療がどのように進化、提供されていくのかを知り、私たちは矯正技工士としてどのように取り組んでいく必要があるのか、どのような学習が求められているかを皆さんと共有する機会にしたいと考えます。